

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム	① No.15 森林と暮らしの歴史・文化を学ぶ ② No.8 冬の森を楽しもう
---------	--

学校名	高知市立十津小学校
学年・生徒数	3年生 40名 (引率：教員3名)
実施場所	①高知県立青少年センター ②高知県立森林研修センター情報交流館
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山の素晴らしさを五感を通して感じる。</li> <li>・山の恵みとそれを生かした暮らしや文化に触れる。</li> <li>・自然を守るために、自分たちにできることを考える。</li> <li>・活動を通して様々な人と関わり、思いや願い、生き方や考え方を学ぶ。</li> </ul>
関連教科	・社会科 人のくらしのうつりかわり
講師	① 高知県立青少年センター 職員 ② 高知県立森林研修センター情報交流館 職員
準備物	・児童 … 野外活動ができる服装、昼食、水筒など

実施項目	① 昔のくらし体験 (高知県立青少年センター)
対象プログラム	No.15 森林と暮らしの歴史・文化を学ぶ
所要時間	約2時間30分
実施内容	1.囲炉裏端体験、農機具体験(約1時間) 2.洗濯板体験(約1時間) ※1組と2組に分かれて上記プログラムを交代で体験した。
実施風景	<p>まず、開講式で、青少年センター所長が挨拶し、職員がスケジュールと注意点を説明した。その後、1組は囲炉裏端と農機具体験、2組は洗濯板体験を行い、約1時間後に交代して体験した。</p> <p>囲炉裏端体験コーナーには、かまど、はがま、せいろ、きね、うす、箱膳、飯籠、木製冷蔵庫など昔の道具が多数展示されており、講師は「この道具は何でできていると思いますか？どのように使いますか？」などと問いかけ、児童等に考えて発言する機会を持たせながら、道具の使い方と木や竹など素材の特性を説明した。アニメ映画「鬼滅の刃」や「千と千尋の神隠し」で観たことがあるという児童もあり、電化製品に囲まれて生活をしている児童等にとって、本物の昔の道具に触れることができる経験はとても興味深く面白かったようだった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>農機具体験コーナーでは、箕(み)、千歯こき、足踏み脱穀機、唐箕(とうみ)などを使って、実際に脱穀するまでの行程を体験した。そして、脱穀した</p>

後の藁（わら）もゴミにせず蓑（みの）や草鞋（わらじ）にするなどして活用していたことも学んだ。

この体験を通して木や竹等の活用や昔の人の知恵や工夫を知ることができ、また、実際に触れて体験することでより関心が深められた。



洗濯板体験では、まず、室内で洗濯板の歴史等について講話を聞き、洗濯板の良い点について意見を出し合った。簡単に作れる、価格が安い、軽い、場所を取らないなどのほか、節水につながることも知った。

その後、屋外に出て、各自が持参したハンカチなどを洗濯板で洗った。外で洗濯するのは寒い、時間がかかるなど、現在の洗濯機と比べて苦勞することも体験できた。

最後に、講師が現在の洗濯機に至るまでの進化について説明した。そして「皆さんはこれからどのような道具を発明したいですか？」と質問し、「最初に洗濯機を作った人は、奥様が病気がちだったので家事を楽にしたいという思いから開発に取り組んだといわれています。皆さんも思いやりの心を持ってものづくりと環境について考えて欲しいと思います。」と伝えた。



実施項目	② 森林散策、アスレチック（高知県立森林研修センター情報交流館）
対象プログラム	No.18 冬の森を楽しもう
所要時間	約1時間40分
実施内容	1. 森林散策 2. アスレチック
実施風景	<p>バスで高知県立森林研修センター情報交流館に移動し、屋外の広場で昼食をとった。</p> <p>その後、職員がガイドしながら森林散策をした。敷地内に生息しているヤマモモ、スギ、ヒノキの葉や木肌などの特徴を観察し、高知県の木や花、魚や鳥について学んだ。途中でタラヨウの木があり、その葉をとって爪楊枝で文字や絵を書いた。親水公園付近は一面が「フウ」の落葉で覆われており、足元がふわふわする感覚を楽しんだ。</p>



道中、昔の道具体験の一つとして、七輪にスギの枯葉を入れて燃やし、その火を消す方法も学んだ。バイオトイレの仕組みについても学習した。

その後、アスレチック広場で木製の遊具を体験した。近年、子どもの身体能力や体力低下が課題といわれている。自然の中で体を動かすことはとても有意義な体験である。

#### 先生の感想

十津小学校は周囲が緑に囲まれています、生き物や植物などに触れ合う環境が整っておらず、また校区の多くは住宅地であるため、自然に触れ、体験を通して気づきや学びを深めることができる山の学習事業を申請しました。

昔の道具体験では、洗濯板を使って洗濯したり、千歯こきや脱穀機を使って脱穀したり、「**本物**」を見ること・触れることができてよかったです。児童の振り返りには、「こんなに洗っても汚れが取れない」「米がちょっとしかとれない」など昔の人の苦労を知ったようです。また、その後の授業では、「昔の人ががんばってくれたから今便利」といった昔の人の努力も感じることができました。

山の学習では、森林散策する中でたくさんの植物を見つけたり、自然のアスレチックを体験したり自然に親しむいい機会を得ることができました。五感を使って自然に触れることで「楽しかった」という感想はもちろんのこと「〇〇の植物があったから自学で調べてみたい」「もう一度森林研修センターに行つてアスレチックやりたい」と振り返ることができました。

有意義な時間をありがとうございました。

#### 補足 その他、プログラムの 特徴

\*十津小学校は以下の学習にも取り組んでいる。

1年生 山の魅力を体験する。(講師：森林研修センター情報交流館)

2年生 自然にあるものでおもちゃづくり。

(講師：森林研修センター情報交流館)

3年生 椎茸駒打ち体験。(講師：甫喜ヶ峰森林公園)

昔のくらしなどについて学ぶ。※本紙記載の内容

4年生 山の恵みで伝統工芸 土佐和紙を学ぶ。

(講師：土佐和紙工芸村くらうど)

5年生 森林を守る仕事について学ぶ。(講師：甫喜ヶ峰森林公園)

\*青少年センターでは、小学5年生と中学1年生向けの集団宿泊学習向けプログラムや学校へ行きづらい子ども達を対象とした事業も実施している。

\*午後のプログラムについて、雨天時の対応として木工クラフト教室を予定していた。情報交流館は学校や他施設へ出前講座に行くことも可能。

